

<今回>220回目 2017年10月6(金)15時~18時 601号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」 p378 続推理小説のモラル より

<前回>219回目(17-9-25) 出席者9名

資料 17-09-25-1)前回のまとめ(清水)

-2)12月末までの予定表(清水)

-3)弥生の銅剣の柄飾りの鋳型発見(朝日新聞)(下中村)

-4)明治の群像写真1,2(清水)

A 報告

府中旅行の9月 21 日は秋晴れで15名が参加し、充実した日帰り旅行だった。熊野神社の上円下方墳は学術調査による復元で解説の方も生き生きしていた。650年説。博物館の漆紙文書は展示されていなかった。大国魂神社の国府跡はまだ発掘範囲を広げないとこれ以上は不明。2班に分かれて懇親会を楽しんだ。

懇親会7名

津多屋15078円(7・2000) - 1076円

B 3)土の鋳型が良く残っていた。須玖タカクワ遺跡がポイント。4)は幕末維新の群像の偽物写真の例、フルベッキ写真には研究者が多い、が議論が公になることは少ない。知る人ぞ知るの段階、古田説がこうなっていない。

C 読書 (p343 神津恭介氏への挑戦状) 九 より

1)①渡海の使用例を列挙、陸地沿いも渡海と言われている例がある。②博多以北には海しかないに対して、4分法の区分けで狗邪韓国から邪馬壹国まで以北の表現は妥当。真北ととっていないか、行路分の国国のことである。③宇佐説では考古学的出土物が含まれない。甕棺の大群から見ても、古田の福岡説が唯一の正解。

2)原文に1字の修正もしないと言いながら“ふりかな”でごまかしている。会稽東治(とうや)、邪馬壹(やまと)、陸行1月(1にち)などこれらは不当表示である。

3)古田武彦説からの無断盗用、黄道説のミス、余里の計算の無理。

4)島めぐり読法に先行者がいた。先方から手紙がきて兄の訪問を受けた。と注記。(津堅房明、房弘、邪馬壹国への道、近畿説論者)

推理小説のモラル 松本清張氏と高木彬光との論争。松本氏は盗作を厳しく具体例を挙げて批判。(小説推理1974・3以来)古代史の本質は推理小説と同じ謎解きである。仮説をたてて実験する。坂口安吾も歴史研究の仕事は探偵と同じだ。原文に1字の改変を許さず、中学生にもわかる明快な論理、科学的推理で難題を解決は全く古田の論理。

2倍年暦は安本美典氏の指摘に始まり古田がこれを展開した。短里説については安本氏が古田に称賛の手紙を送ってきた。同様のアイデアであればお互いに先立って交換するルールがある。島めぐり読法には先行論文があった。本の発刊後ご本人からの手紙で知った。未見のものがあるのは避けがたい。

3)直木孝次郎氏と対談し、水行10日、陸行1月は高木の独創とは思われないといわれた。

4)重松明久(福井大学)氏、彼は盗用の被害者。「覚如」をかいた。丹羽文雄は「蓮如」を書いた。関東門徒団の動向は借用部分が多い。その後和解した。小谷部全一郎著「成吉思汗ハ源義経也」(大正13年)高木彬光は「成吉思汗の秘密」(昭和35年)を書いている。これには小谷部氏の書名が載せられている。

5)推理小説は民主主義の発達した社会で繁栄するというテーゼが黄金のルール、フェアプレーでなければならない。

次回日程 17-10-27(金) 16時から18時 601号室

11-6(月) 15時から18時 601号室

11-20((月)15時から17時 602号室